

## 【提出意見】

山内 敏男（兵庫教育大学）

### ■ 議題（2）について

p. 51 統合単位につきまして述べさせていただきます。

「Aの歴史の扉」につきましては、社会科を学ぶ意味を問うことに加えて、社会を見る目、言い換えれば見方・考え方をガイダンスする単元として位置づけることができ、高次の資質・能力を成長させていくための手がかりとなり得る点で画期的だと考えています。

その上で、いくつか指摘させていただきたいと思います。第一に、これまでの議論にもありましたように、「地域に閉じる」可能性は減じておく必要があると思います。としますと、例えば歴史博物館のアーカイブ資料を積極活用するなど web にある資料を取り込むことで、地域外への展開も容易となりますし、地域や学校の実情に応じた多様な学びが展開できるのではないのでしょうか。この例で言うと時間軸と空間軸の広がりをもふまえて、調べる、まとめる、対話する、多様な認識や判断をふまえて説明する、あるいはまとめ直す学びが期待できます。

第二に山田委員のお話と関連して「なぜ、学ぶのか。学ばないとどうなるか」も取り入れる必要があります。ただし、僅か数時間で結論が出るわけではない大きな課題ですので、大単元に1つ埋め込む、例えば「中世の特色をふまえて、現代社会の諸問題解決の参考になることはあるか」などの関連づけができるとよいのではないのでしょうか。

第三は分野の枠を取り払い、社会科全体から社会の形成者を育成する点に同意しつつ、実際の学校のカリキュラムに即して、どの分野に入れ込むのかあるいはしないのか、分野を増やしたり削ったりする時間の調整はどうするか、課題が残ります。教科として曖昧な設定に向かった場合、全教科等との関係で時間数と内容を減じられてしまうのではないかと、つまり社会科としての時間・内容が削られてしまうのではないかとという危惧があります。

以上、統合にかかわる見解を述べさせていただきました。

何かしらの一助になれば幸いです。

今後ともどうかよろしく願いいたします。